

2022年度
半農半Xインターンシッププログラム
実績報告書

2023. 2.28 株式会社百章

▶目次

①インターンシップ実施

- (1)畑地区
- (2)日ヶ谷地区
- (3)矢原・脇の浜地区

②アンケート集計、個別ヒアリングのまとめ

- (1)参加前申し込みフォーム集計
- (2)参加後アンケート集計
- (3)参加者個別ヒアリングまとめ

③広告宣伝にかかる数値成果

- (1)LP訪問者数
- (2)SNS広告運用
- (3)その他広告媒体への掲載

④その他、成果物について

- (1)LP作成
- (2)事後オンラインウェビナー

⑤全体まとめと次年度への提案

①インターンシップ実施

(1)畑地区

期間:9月18～24日

参加者数:2名(台風直撃により、3名キャンセル)

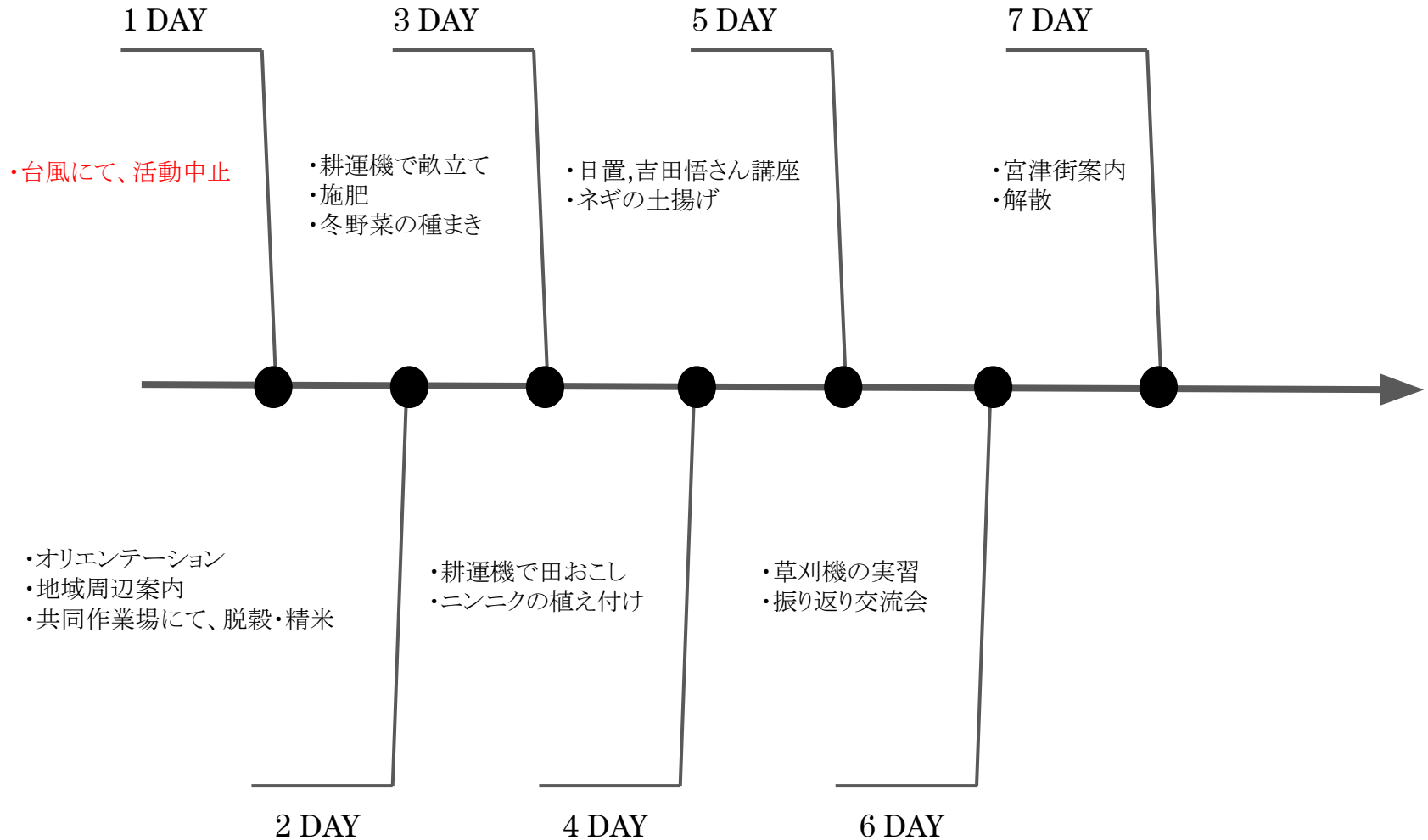
地域側参加者数:8名

滞在場所:上宮津喜多・農家民宿



①インターンシップ実施

(1)畑地区(実際のスケジュール)



①インターンシップ実施

(1)畑地区(活動の様子)



①インターンシップ実施

(2)日ヶ谷地区

期間:10月16～22日

参加者数:3名

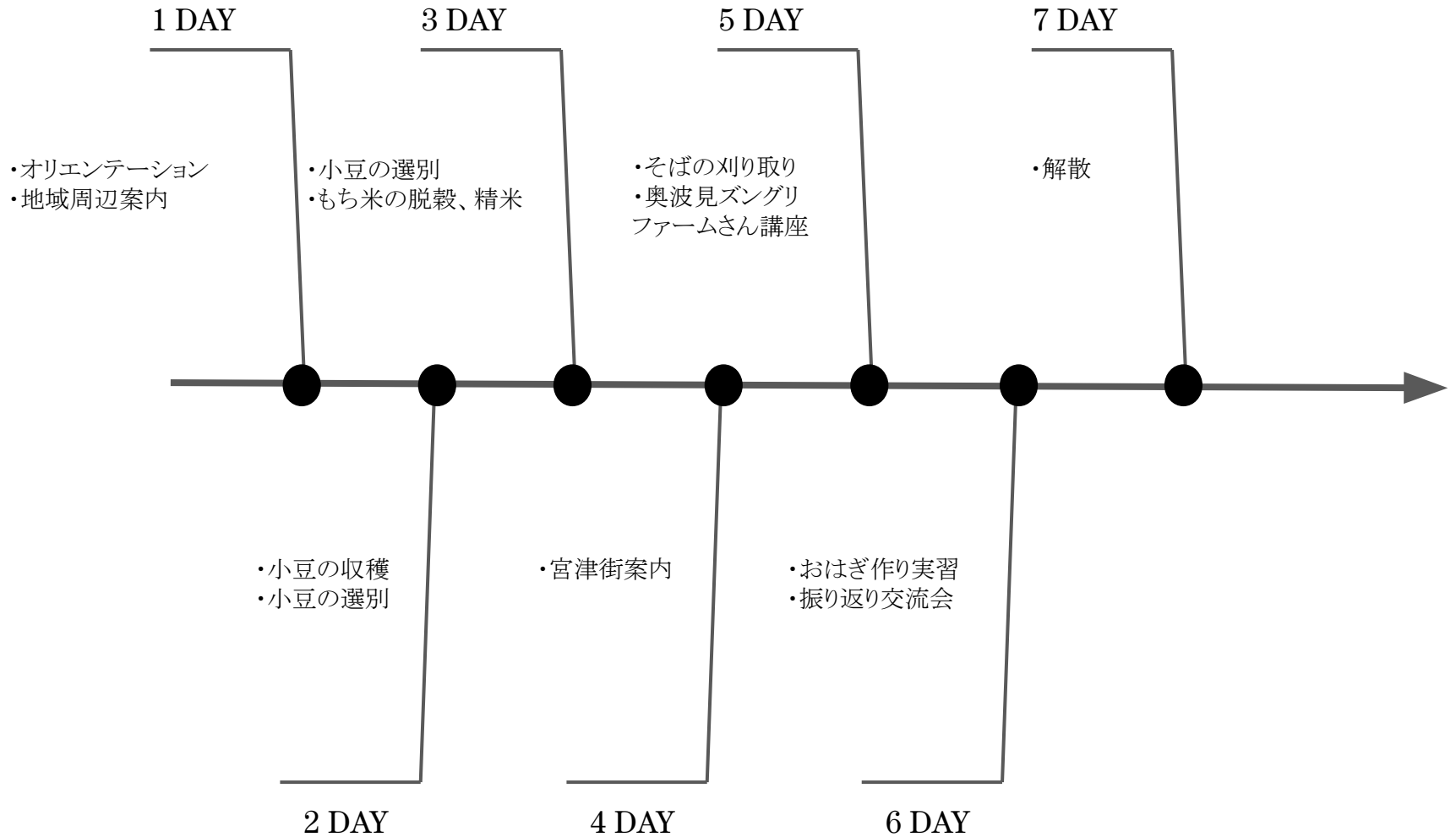
地域側参加者数:14名

滞在場所:海と星の見える丘公園
上宮津喜多・農家民宿



①インターンシップ実施

(2)日ヶ谷地区(実際のスケジュール)



①インターンシップ実施

(2)日ヶ谷地区(活動の様子)



①インターンシップ実施

(3)矢原・脇の浜地区

期間:10月23～29日

参加者数:1名+宮津市在住2名(1名日程変更、3名キャンセル※大学生)

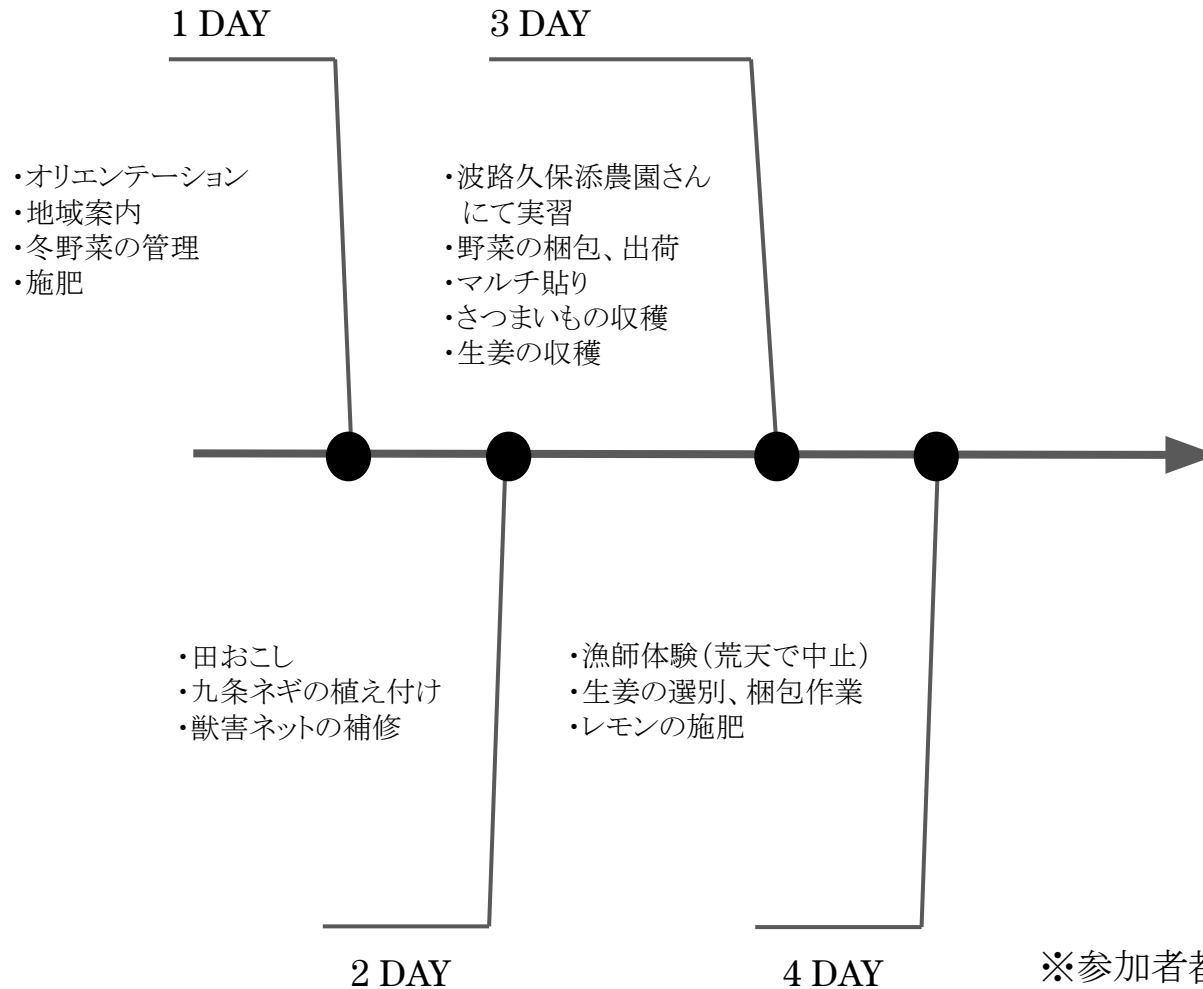
地域側参加者数:6名

滞在場所:上宮津喜多・農家民宿



①インターンシップ実施

(3)矢原・脇の浜地区(実際のスケジュール)



※参加者都合により、日程短縮

①インターンシップ実施

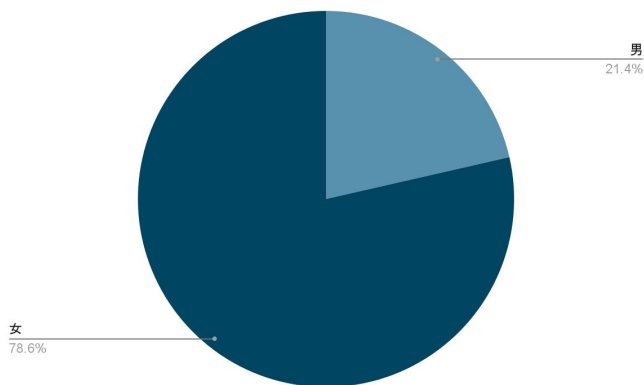
(3)矢原・脇の浜地区(活動の様子)



②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(1)申し込みフォーム(参加者属性)

①男女比率(男:女 = 3:11)



②申込者住居エリア

- ・京都府(宮津市内) 2名
- ・京都府(宮津市外) 3名
- ・高知県 3名
- ・大阪府 2名
- ・兵庫県 1名
- ・神奈川県 1名
- ・熊本県 1名
- ・千葉県 1名

③所属分類

- ・大学生 7名(20代 7名)
- ・一般企業(正社員) 2名(30代 1名、40代 1名)
- ・一般企業(非正規) 2名(20代 2名)
- ・フリーター(休職中、求職中) 2名(20代 1名、30代 1名)
- ・フリーランス 1名(20代 1名)

④申し込みチャネル

- ・口コミ(紹介) 8名
- ・SNS(広告or知人紹介) 5名
- ・その他 1名

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(1)参加前申し込みフォーム(参加理由など)

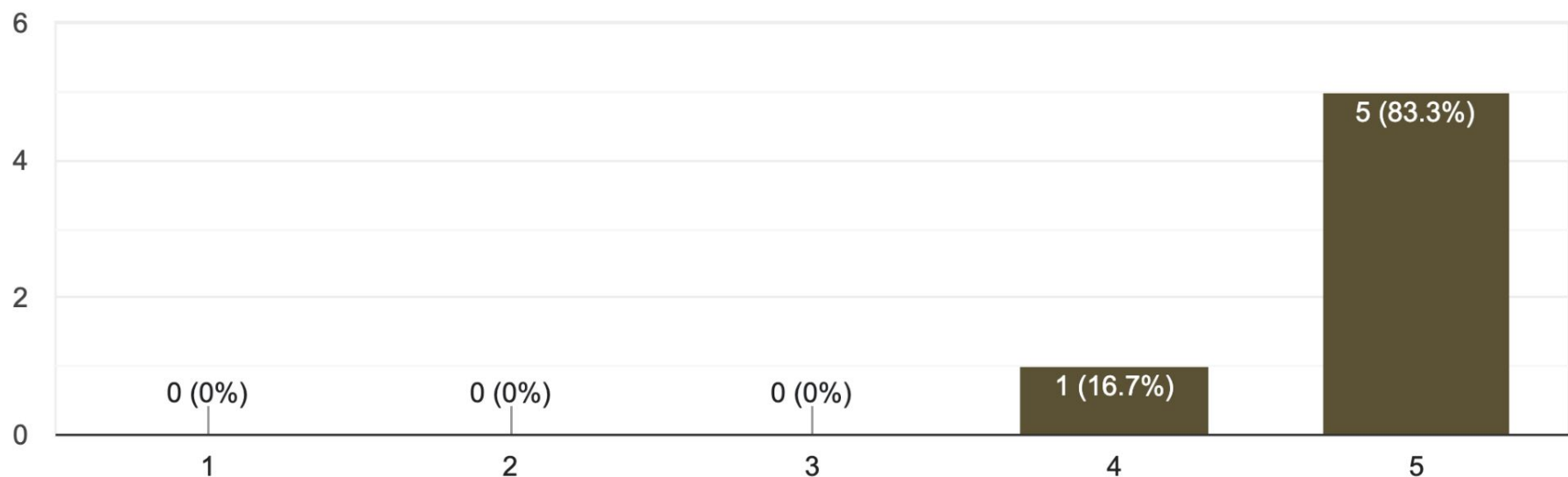
- ・以前から農業という暮らしに興味があり、生きていくうえでの「食に」についての実体験を交えた学びや理解を深める機会が欲しかった。
- ・地域や暮らしに根付いた農を体験したかった。
- ・移住を検討しており、農ある暮らしができ場所も候補の1つだったため、良い機会と考え、参加した。
- ・農業を将来の選択肢として体験したかった等。
- ・生業としての農業を学びたかった。
- ・過疎地域において、どのように文化や産業を守ってきたのか、農業を通して学びたい。また若者に何ができるのか考える機会にしたい。
- ・地域の方や参加者との交流をしたい。
- ・農業経営について、就農者から1から学びたい。
- ・移住者との関わりをもちたい。

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加後アンケート集計

宮津へまた来てみたいと思う機会になりましたか？

6件の回答

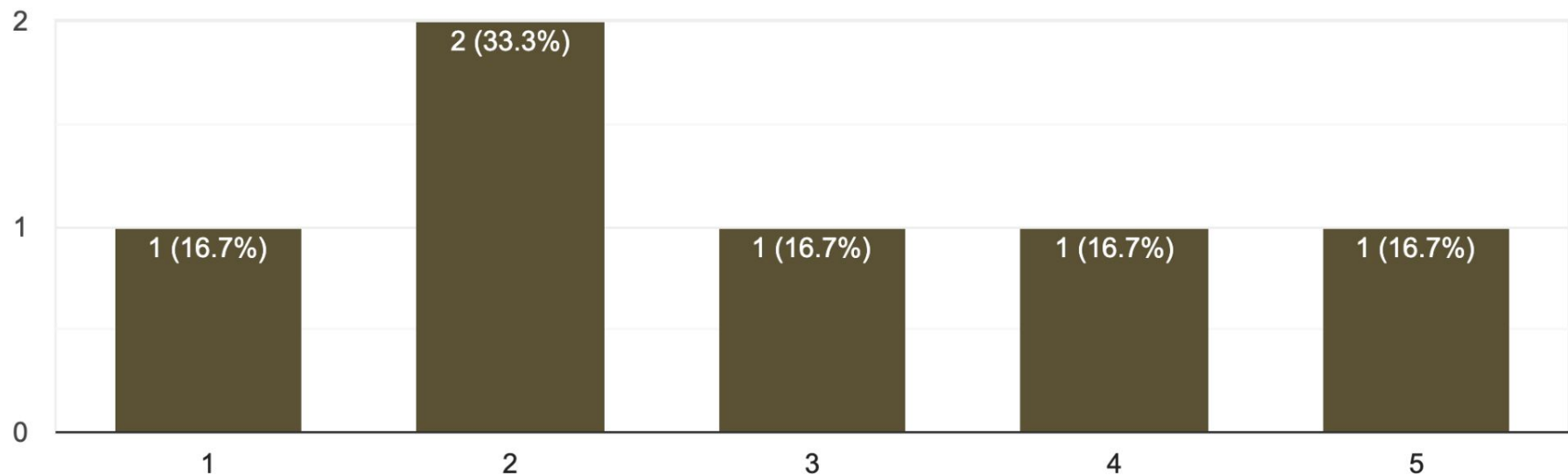


②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

宮津へ来るのは、前後で感じる距離は変化しましたか？

6件の回答



②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

(問) 宮津へ来てみて、感じた魅力や可能性を教えてください

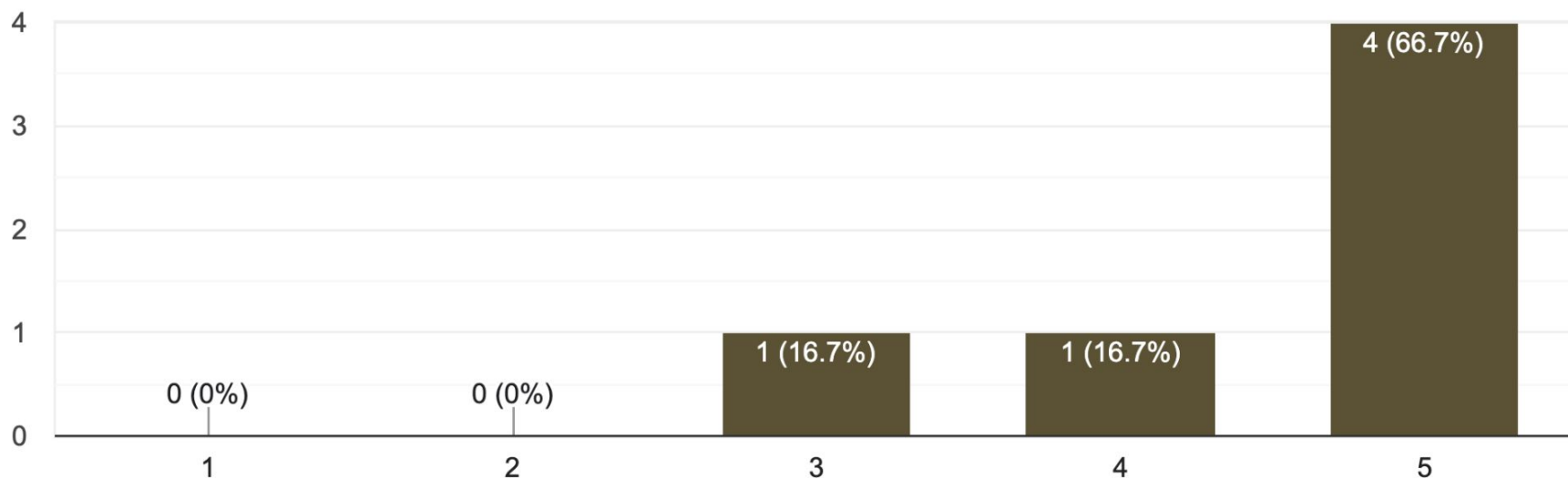
- ・若い素敵な人がたくさんいる。海と山が近い。星がよく見える。農的な暮らしをしながらワーケーションとかにもニーズがあるのではないだろうか。あと、後継者募集的な形で地域起こし隊の応募をするとか。
- ・自然や人や歴史とのつながりを大切にしているところ。挑戦や取り組みに対してまっすぐな人が多いところ。
- ・山と海がほどよい距離で、自然が豊か。
- ・山と海が綺麗
- ・現地の人や、歴史ある街並みが素敵でした。特に地域の方々の優しさや思いやりが心に残っており、外部から訪れた私たちのことを温かく迎えてくださり、「またおいで」と繰り返し言ってくれたことが心に残っています。
- ・このイベントに参加したことで、飲食店の情報など、地元の方しか知らない情報を知ることが出来て、とても良かった。飲食店の方も、地元の方(スタッフ)と共に行ったこともありリアルな話をたくさんしてくれたので、ただの観光客では知れない地元の話聞くことができた。

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

地域の暮らしや文化について知ることができましたか？

6件の回答

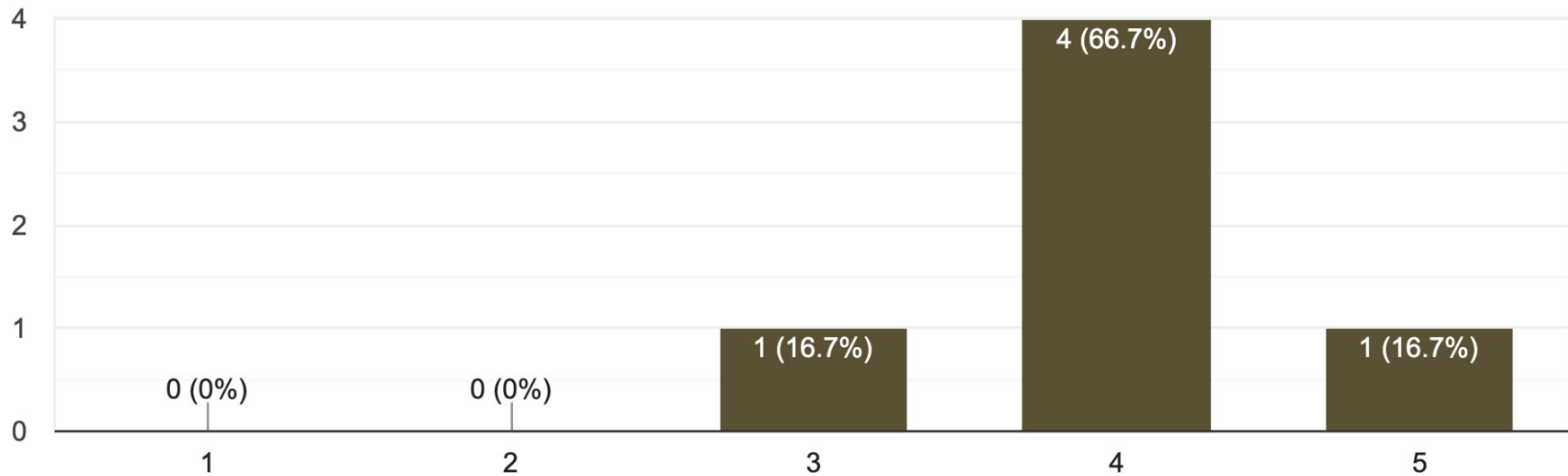


②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

将来、こうした地域での暮らしを選択する可能性はありますか？

6件の回答



②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

(問)地域の暮らしやナリワイに触れてみて、感じたことを率直に教えてください

- ・昔ながらの暮らしが残っている。地区の人は農業を楽しみながらのんびりと暮らしていて、都会にいる私たちが忘れてしまった大事なものを持っているなと感じた。地域のコミュニケーションが濃密だが、プラスの面もマイナスの面も人によっていろんな思いがあるのだと垣間見えた場面もあった。
- ・毎日夫婦や家族だけでいろんな作物を育てるのは大変だろうし、地区や土地を維持するにはなおさら大変だと感じた。車がないと難しいし、道が狭いから運転は大変そうだと思います。
- ・色々なものとの距離感が近いと感じました。自分の普段の生活と似ているようで全く違ったり、全く違うようで似ていたりして感じました。
- ・作物をつくるのは大変なことだと思います。ただ、食糧を自分で生産できるのは強いと思いました。
- ・安価SIMが使えない、車がないとちょっと不便、農業だけで生活立てるのが難しい
- ・人口の少ない村だからこそ、村人全員で協力して生活していかななくてはいけないことがわかりました。良い面も大変な面もあるとは思いますが、インターネットの普及やコロナウイルスなどの影響で年々人と相対することが少なくなってきた時代に、周りの人と繋がり協力することで得られる温かさや難しさを感じられる暮らしだと思います。
- ・今回関わった方は、いずれも移住または、地元育ちでも違う仕事を経て農業に入った方であったためか、先進的、未来志向な考えの方が多かった。一方で、皆さん苦勞されていることはよくわかった。

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

(問)今回受け入れてくださった地域の方へメッセージ

・受け入れて下さりありがとうございました。温かく接して下さって嬉しかったです。おばあちゃんやおじいちゃんと一緒に暮らしてお手伝いするってこんな感じなのかなと思いました。とてもいきいきしていて素敵な方たちばかりでした。また遊びにいきたいです。おはぎはとても美味しかったです。ありのぶさんのもち米とまさあきさんとけいこさんの小豆がとてもいいものなのだと思います。そして、加工グループのさよちゃんみっちゃんたまちゃんの作り方が上手だからです！石田さんも毎日一緒に作業したり他の方との調節等してくださりありがとうございました。

・貴重な体験の場を準備してくださりありがとうございました。精米工程や地域に伝わる和紙づくりなど初めてみさせてくださいました。また、耕運機やトラクター、草刈機など初めての挑戦をすることができました。さらに農業が抱える問題について文面上では感じられない部分を現実味を持って感じることができました。なにより暖かく迎えてくださって嬉しかったです。ありがとうございました。

・皆さんの温かさに触れて、人の情を知りました。ありがとうございました。

・色々ありがとうございました。短い時間でしたが、色々な生き方を知ることができてよかったです。また機会がありましたら、遊びに行きたいと思います。よろしくお願いします。

・インターンシップは1週間という短い期間で、実際に地域での体験をさせてもらった時間はわずかでした。しかし、農業の魅力や地域の魅力を伝え、私たちに素敵な体験をさせてあげようという心遣いが随所で伝わってきて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。優しく、ユーモアある皆さんに受け入れていただけたからこそ農村の魅力をより知ることができ、体力的には大変なことも多い農作業もとても充実していて楽しかったです。たくさんの方を教えていただき、おいしいご飯や楽しいお話でおもてなししてもらって本当に幸せな時間でした。ありがとうございました。

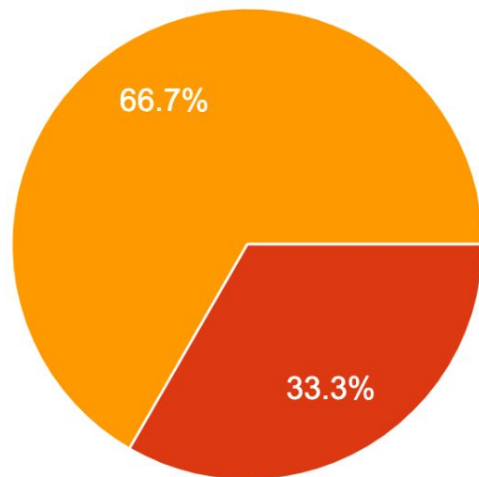
・急な申し込み、かつ注文の多かったなかで、柔軟に対応いただきありがとうございました。また、ゆっくりお伺いしたいです。

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

今回のプログラムに参加した動機で最も近いものを選んでください

6件の回答



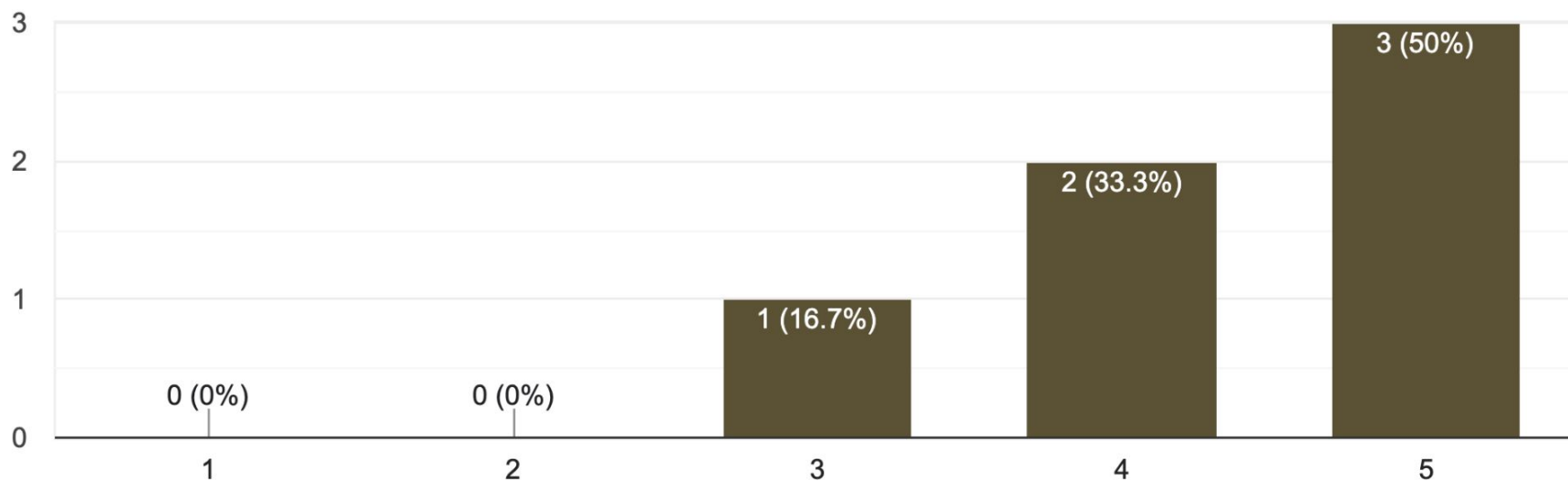
- 農業体験に興味があった
- 田舎暮らしに興味があった
- 田舎の人との交流に興味があった
- 宮津へ観光に来てみたかった

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

将来、農業をやってみるのもいいと思いますか？

6件の回答

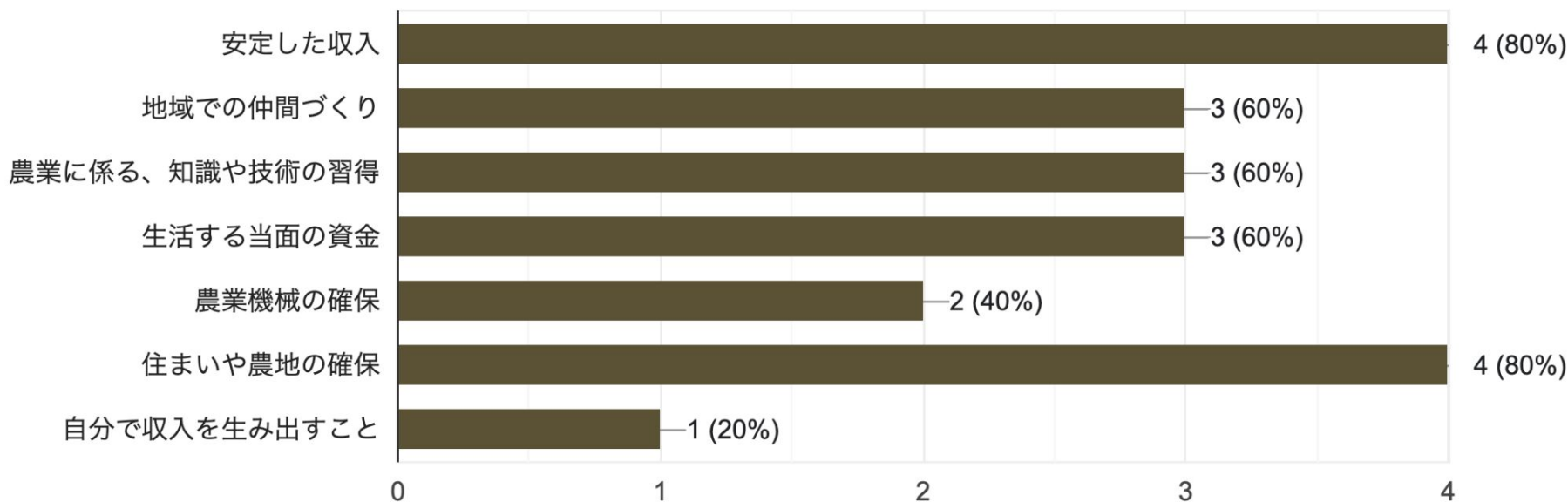


②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

上記の質問で4~5を選んだ方へ質問です。どん...現実的な検討を行うと思いますか？（複数回答可）

5件の回答

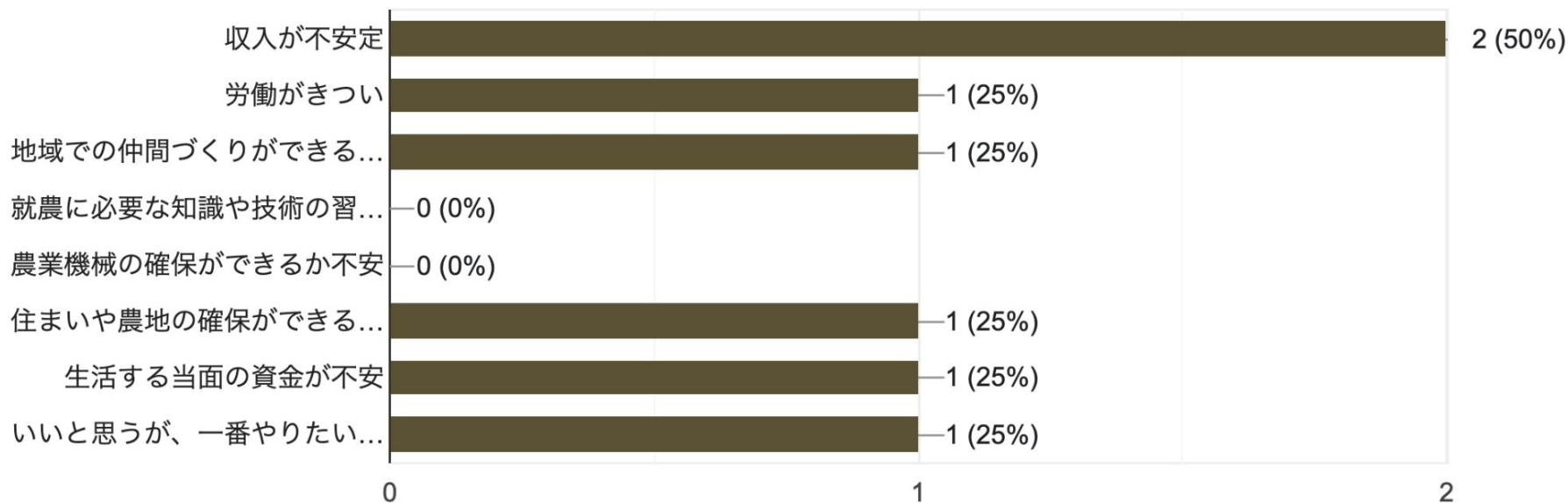


②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

上記で1～3を選んだ方へ質問です。 どうしてそう考えられましたか？

4件の回答

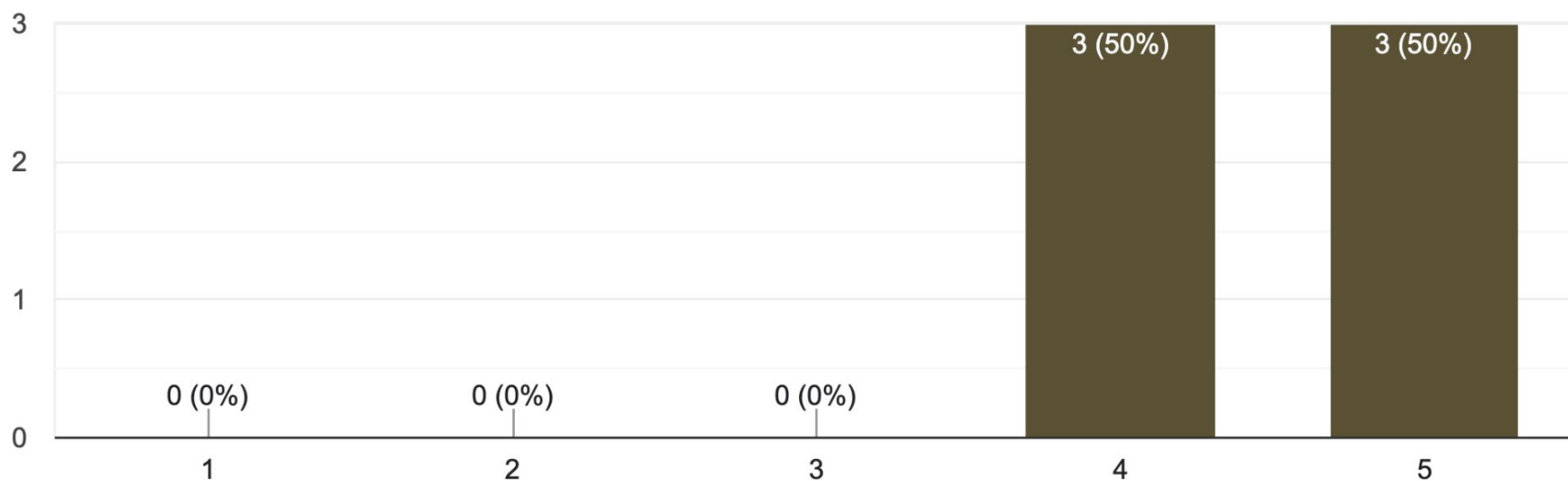


②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(2)参加者事後アンケート集計

期待していた体験・実習は出来ましたか？

6件の回答



②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(3)参加者個別ヒアリングまとめ

【参加者A】

・関東との2拠点生活を考えており、たまたま今回のプログラムの広告を見て応募した。元々、地方での暮らしの経験もあったが、当時ガッツリとした農業の仕事に従事しており、体を壊した経験などがあったため農業で暮らしていける賃金を得るというより、農業ができる環境での暮らしを求めている。今回のきっかけで宮津へ帰ってくる理由ができたため頻繁には難しいが、1年に一度は来れるようになりたい。

【参加者B】

・コロナ前は東南アジアからの観光客を日本でアテンドする旅行会社で働いていた。コロナの影響で仕事がなくなり、現在は休職中。バイトでバリスタの仕事をしているが、正社員雇用をされなければ、ビザの問題で国に帰らなければならない。日本で働きながら、母国とのつながりを感じるという点で農業には興味があり、今回参加した。日本の豊かな自然が残る中での難しい現状も感じつつ、自然が残っていて、そんなところで農業を生業として続けている人たちがいることにとても感動した。野生の獣が出てくることも、それだけ自然が残っているということだと思う。こうした自然環境を日本は東南アジアの人たちにうまくアピールしていければ、インバウンドも戻ってくると思うので、いずれは宮津にそんな人たちを連れてこれることもできたらいいなと思った。

②申し込み、アンケート集計、個別ヒアリングまとめ

(3)参加者個別ヒアリングまとめ

【参加者C】

・宮津はすでに3度目の滞在。元々、大学を卒業したら移住を検討していたが、よりコアな地域との繋がりや暮らしについて知った上で、決めなかった。今回参加した畑地区はもう限界を超えた集落のように外側からは見えたのだが、実際にそこで暮らす人と話していくと、未来の話もたくさん出てくるし、前向きに頑張っている人がいることを知った。自分が集落に住むという決断はまだできるほど自信はないが、宮津へ移住していつでも通える距離になってからはたまに遊びに行くことや農繁期の手伝いなど行ってみたい。

【参加者D】

・大学で島の研究をしており、限界集落の課題についてさまざまな視点から学んでいるが、座学だけでなく、現地で自分自身に関わることの重要性を感じた。研究者がデータとして集めている机上の空論的なものよりも、リアルなことを知れる機会になった。自分の進路についても悩んでいるところで、農業を生業にとすぐになることはないが、農業を暮らしの一部の要素にできるような場所で暮らしたいと改めて思った。何年か、都市での暮らしをしながらキャリアを積んで、田舎でその経験を発揮できる人になりたいと思っている。行政の仕事にも興味があるため、募集さえあれば、宮津市役所を受けることも念頭に入りたいと感じている。

④広告宣伝にかかる数値成果

(1)LP訪問者数



サイト公開後、2月末までで3,000以上のPVを獲得。その内、600ほどのユーザーが複数回訪れていることからプログラムへの関心度の高いユーザーがいることもわかった。サイト内の滞在時間が平均 4分 36秒という比較的長い間サイトへ滞在する傾向もわかり、関心の深さを伺える。

④広告宣伝にかかる数値成果

(2)SNS広告運用 (Facebook広告)

▶運用投稿数 2

▶リーチ数 142,050

※投稿を詳しく観覧した人の数の合計

▶アクション数 2,025

※投稿のリンクをクリックなどの
アクションを行なった数の合計

▶運用期間 2022/9/5~10/18

▶運用合計費用 132,742円

▶リンククリック単価 65.5円

▶広告からの申し込み(ヒアリングによる)
5名(2名キャンセル)

④広告宣伝にかかる数値成果

(2)SNS広告運用 (Twitter広告)

▶運用投稿数 3

▶リーチ数 341,186
※投稿を詳しく観覧した人の数の合計

▶アクション数 517
※投稿のリンクをクリックなどの
アクションを行なった数の合計

▶運用期間 2022/9/5~10/18

▶運用合計費用 100,751円

▶リンククリック単価 194.8円

▶広告からの申し込み(ヒアリングによる)
0名

④広告宣伝にかかる数値成果

(3)その他広告媒体への掲載

京都府公式移住・定住情報サイト
今日と明日
KYOTO LOCAL LIFE

TOP - イベント - 宮津 農旅インターンシップ vol.2野菜づくり×加工 / vol.3半農半漁

宮津 農旅インターンシップ vol.2野菜づくり×加工 / vol.3半農半漁

- ① vol.2 2022年10月16(日) - 22日(土)
- vol.3 2022年10月23(日) - 29日(土)
- ② 宮津市の各受け入れ場所

申し込みはこちら →

#丹後 #宮津市 #仕事 #農業 #漁業 #半農半X #地域資源活用 #コミュニティ
#持続可能な暮らし

※こちらは、2022年度、京都府宮津市 (<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/>) と株式会社百章 (<https://www.hyakusho.org/>) が連携し、企画・運営を行う農業インターンシッププログラムです。



京都府公式移住・定住情報サイト
『今日と明日』へ掲載

<https://www.kyoto-iju.jp/event/2022miyadu-nou/>

2022年(令和4年)10月7日 金曜日

農漁業学び田舎生活体験

宮津の若手農家ら「農旅インターンシップ」

交流人口創出し魅力発信へ



宮津市内の農家や漁家を会場にした「農旅インターンシップ」を、若手農家らによる株式会社「百章」と連携して、交流人口を創出し、1次産業の魅力発信に努める。

宮津市内の農家や漁家を会場にした「農旅インターンシップ」を、若手農家らによる株式会社「百章」と連携して、交流人口を創出し、1次産業の魅力発信に努める。

宮津市内の農家や漁家を会場にした「農旅インターンシップ」を、若手農家らによる株式会社「百章」と連携して、交流人口を創出し、1次産業の魅力発信に努める。

京都新聞 2022.10.7朝刊へ掲載

④その他、成果物について

(1)LP作成



宮津農旅インターンシップとは？

「農」は暮らしの延長線上に、地域の延長線上にあります。
宮津農旅インターンシップは、
企業でガッツリ農作業の知識やスキルを学ぶ、というのではなく、
地域に入り、暮らしと繋がっている「農」を体験していただくプログラムになっています。

ここ最近「年輩農家」や、「農ある暮らし」という言葉もよく耳にしますが、
農への関わり方は本当に多岐にわたります。
自分の人生の中で、どんな風に「農」があるといいでしょうか？
自分に合った「農」を見出す際に助けけてみませんか？

[詳細を見る](#)

宮津について

宮津市は、京都府北部の海沿い、中央約100kmの範囲に広がる町です。
その歴史は1000年以上も昔から続いたとされる歴史文化の町でもあります。
そのため、地域ごとのアイデンティティが未だ色濃く、
各地で独自の祭りや文化的活動が行われています。

そんな歴史を支えるのは、広葉樹の森を広がる自然林。
その山が染み出す清流、月をつたって流れ込んだミナモト豊富な海です。
ソノマツ海岸になる宮津湾は天然のいけずになっており、豊富なプランクトンが隆立し、
日本一のトビイロそば産地とする豊かな海産資源を生み出します。

また、日本三景の一つに数えられる天橋立は、多くの観光客を魅了し、
宮津の経済活動の軸ともなっています。

山・川・海が広がる
自然豊かな観光の宝庫

日本三景・天橋立

種類豊かな海の幸

2022年度募集中のプログラム

参加費 無料 | ①参加料、②食費、③宿泊費は別記

<p>① 稲 人口10名の村で 江戸時代から続く 稲作農家の手伝い体験</p> <p>【期 間】 2022年9月16(日) - 24(土)</p> <p>【場 所】 京都府宮津市磯部</p> <p>【実施地】 磯部</p> <p>【募集枠数】 10名</p>	<p>② 稲 稲作から学びたい 野菜作りと土を学ぶ 体験</p> <p>【期 間】 2022年10月16(日) - 22(土)</p> <p>【場 所】 京都府宮津市久美川</p> <p>【実施地】 久美川</p> <p>【募集枠数】 10名</p>	<p>③ 魚 海沿いの集落で 海産物を 体験する体験</p> <p>【期 間】 2022年10月22(日) - 29(土)</p> <p>【場 所】 京都府宮津市久美川</p> <p>【実施地】 久美川</p> <p>【募集枠数】 10名</p>
--	--	--



よくある質問

Q 滞在中の宿泊や食費はどうなりますか？
A 宿泊については、基本的に滞在中は無料となります。滞在希望の地域や条件などについては、ご確認ください。また、食料に関しては各自で用意していただきます。ただし、1000円〜2000円程度の食費補助金を提供いたします。

Q プログラム期間中、自由時間がありますか？
A 基本的に、1日1泊のプログラム期間中は滞在中に滞在していただきます。滞在中は、滞在希望の地域や条件などについては、ご確認ください。また、食料に関しては各自で用意していただきます。ただし、1000円〜2000円程度の食費補助金を提供いたします。

Q 滞在中の移動手段はどうなりますか？
A 参加希望の地域（インターンシップ先）へ、申し込み後、参加希望の地域に滞在していただきます。また、その場合は事前に連絡される必要事項に入らせていただきます。

Q 参加希望地域は複数出してもいいですか？
A 可能です。申し込みがキャンセル待ちとなった場合は、調整させていただきます。ご了承ください。

Q プログラム開始前、終了後も滞在は可能ですか？
A 可能です。その場合は、別途自身で宿泊費等を負担いただくこととなります。ご確認ください。参加ご希望の方は、必ず事前に申し込みください。

Q 新型コロナウイルス感染症対策についてはどのように対応されていますか？
A 参加希望の地域に、事前に感染症対策の徹底を促していただくようにお願いしてまいります。また、プログラム中はマスクの着用や手洗いの徹底をお願いいたします。また、食料に関しては各自で用意していただきます。ただし、1000円〜2000円程度の食費補助金を提供いたします。その後、帰りの交通手段については事前に調整させていただきます。

Q プログラム期間中の別行動は可能ですか？
A 基本的に、自由時間の確保や、滞在中に別行動していただくことは可能です。ただし、参加希望の地域に滞在していただく場合は、事前に申し込みいただく必要がございます。また、参加希望の地域や条件などについては、ご確認ください。

申し込みはこちら

以下から、申し込みフォームへお進みください。

④その他、成果物について

(2)事後オンラインウェビナー



▶開催日
2023年1月27日 19時～

▶開催場所
zoom

▶スケジュール
・参加者間の自己紹介
・2022年度 実施内容の紹介、開催地域の紹介
・2022年度 参加者より振り返り、意見交換
・次回以降の開催に向けて

▶参加者
8名(うち、4名は本年度インターン参加者)

▶参加者からの声
・次回があるなら参加者として参加したい
・今回の経験は自分の将来の生き方にすごく価値のある体験だった。
・実際に参加した人からリアルな声を聞いてよかった。

⑤全体まとめと次年度への提案

①開催時期について

事業スタート時期が農閑期と被ってしまったことで、体験内容がどうしても薄くなってしまうため、地域側も受け入れるのに苦労していた。事業開始を春先に設定し、6～8月の開催をできる形にしたい。

②プログラムボリュームについて

本年度、参加対象としている人について参加ハードルを下げる意味も含めてプログラムボリュームを下げて良かったと感じた。

③参加費について

矢原・脇の浜地区の実習において開催10日前後でキャンセルが相次いだ。特に学生は授業との日程調整が難しいところではあるが、参加費無料とすることで逆にキャンセルしやすい状況を作ってしまったように感じた。今後、一部有料化することも検討が必要。

④予算について

初年度で認知もない中ではあったため、募集定員数を満たす参加者を呼び込むには広告宣伝費が低予算であった。特に母集団を形成するための、講師やゲストを呼んだオンラインイベントや他社メディアへの記事掲載などが出来なかった。今後の課題として挙げたい。

⑤参加者層について

インターンシップと銘打っているためか、大学生の参加希望者が多く集まった。が、当事業で目指している参加者層と合っているのか？という疑問があり、次年度に向けた広報宣伝手法を検討している。

⑤全体まとめと次年度への提案

⑥広告宣伝について

初年度で認知がない中で大変多くの反響をいただいた。ただ、集客にかける日程的余裕がなかったことがあったため、次年度開催するなら集客スタートは早々にやれるように準備したい。チラシ媒体も欲しいという声が多くあったため、今回は Web を中心としながら口コミでも広げてもらえる施策も考えてい。

⑦SNS広告について

Facebook 広告より5件の申し込みがあった。Facebook へ広告を流すと自動的に Instagram へも流れるため、若年層への広告としても有効であることがわかった。費用対効果も比較的高いので個別での集客と合わせて予算をかけて積極的に流していきたい。Twitter は効果が薄いことがわかったが、認知拡大には効果的であるので、うまく使い分けが必要であると感じた。

⑧プログラム全体について

初年度ということもあり、地域の受け入れ体制を構築するところからスタートしたため、なんとかやり切った感があった。参加者満足度は比較的高くできたが、人数が多くなると期待値の調整を地域と市とより密に連携して取り組んでいきたい。特に、農業を実際にやるということを考えてもらうためには、地域の農業従事者は高齢者が多いので、より若年層の農業者より話を聞く場があってもいいかと思う。今年度はコロナのこともありできなかったが、夜に交流会などを設定して、地域内のそうしたプレイヤーの方と交流できる場も次回以降は開催できるとより良いと感じた。